

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	なののはな		公表日 2026年 3月 18日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11		各部屋の定員等を把握し、利用人数が多い場合は、適切なスペースを確保できるように、遊戯室や大会議室など広い部屋で活動するようにしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	1	職員の配置基準を守っていますが、職員の年休や病休、活動の場所や種類によって、職員の目が行き届かない場面がありました。打ち合わせを細かに行うなど工夫をし、安全に活動ができるようにしていきたいと思います。	打ち合わせを密に行い、各職員の役割分担や配置を確認し、安全に活動できるようにします。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11		ホワイトボードに写真や絵を使って活動内容や活動場所を知らせるようにしています。保護者とコミュニケーションがしっかりとれるように懇談場面ではスマホのコミュニケーションアプリ等を使用し情報伝達ができるようにしています。	掲示場所や掲示枚数などを整理し、見やすい環境にします。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11		清潔で安全な環境になるように定期的に点検を行っています。また今年度は感染症対策のため、療育終了後に使用した机や椅子、おもちゃ、部屋の消毒を必ず行っています。	安全・安心な環境が提供できるように日々の掃除や点検に努めます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11		こどもや保護者が不安になったり、気持ちが落ち着かない時には落ち着ける部屋や場所で気持ちが安定するまで、過ごすことができますので担任にお声がけください。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	1	朝礼や終礼、職員会等で情報共有し、今後の対応や振り返りを行なっています。また個人目標シートを活用し業務の改善に努めています。	PDCAサイクル(目標設定と振り返り)について理解を深め、職員の資質向上に活用しています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		保護者等向け・事業所向け評価を行いその結果を日々の支援や業務の改善につなげています。また結果についてはホームページに公開しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	4	現在第三者による外部評価を行っておりません。	豊田市および愛知県の監査を毎年受けており、指定管理の管理運営評価として公表されています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11		職場での研修会やいろいろな外部研修に参加し職員の資質向上に努めています。	パートの職員や時短勤務の職員も研修に参加できるように工夫をしています。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		ホームページに公表し、施設内にも掲示しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11		定期的に保護者と懇談の機会を設け、ニーズや課題の分析を行い、児童発達支援計画を作成しています。	今後もニーズに即した児童発達支援計画への作成に努めます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11		職員会やケース検討会、日々のミーティング等で職員全体で検討を行い共通理解のもとで児童発達支援計画を作成しています。	打合せを密に行いパートの職員や時短勤務の職員にも個別支援計画が共有できるように工夫します。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		職員間で情報共有し計画に沿った支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1	発達検査等の標準化されたツールや療育場面での行動観察や保護者とのこどもの様子の確認を通してこどもの商況を確認しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		こどもの発達や状況を保護者と確認しながら、計画を立て、具体的な支援を考え、作成しています。	保護者にとってわかりやすく、取り組みやすい内容になるように努めます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		日々の打ち合わせや職員会等で、確認しながら立案しています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11		季節の行事を取り入れながら、グループ活動や園外活動などを行っています。	活動場面でのこどもの様子や日々の振り返りを定期的に行い活動プログラムが、固定化しないよう工夫します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11		こどもの発達に応じた活動ができるよう、集団活動と個別活動を組み合わせています。	集団活動と個別活動の様子を分析し、児童発達支援計画の作成にいかします。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	1	朝礼や終礼、職員会の中で、支援の内容やこどもの様子について振り返り、次の支援に向けての役割分担や課題について、共通理解しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11		こどもの発達や支援に対する様子など細かな部分も記録に残し、支援の検証・改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11		定期的に個別懇談会を行い、保護者の意見を聞くとともに、必要な時は計画の見直しを行っています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11		こどもの状況をしっかり把握している職員が参画できるように調整を行っています。	
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11		おやこ応援課や保育課、学校教育課などの関係機関の担当者と連携できる体制が整っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11		移行児交流や移行児書類の作成を行い、移行先の園とこどもの発達や現在の状況を情報共有しています。また入園後も連絡が取れる体制を作っています。	入園・入学後も相談ができる体制や保育所等訪問支援事業の利用など移行先でこどもが健やかに成長できるように支援していきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	1	移行先の学校と入学前から情報共有を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	10	1	児童発達支援事業所との研修会を行っています。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	10	1	のぞみ診療所の医師や専門職と情報交換を行ったり、外部の研修に参加しています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	7	4	こども部会が設立されていませんが、発達を支援する関係機関が集まる会議（豊田市心身障がい児早期療育推進委員会）に参加しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	4	なのはなグループでは並行通園を行い地域のこどもと活動しています。ちょうちょ・とんぼグループは9月に地域のこども園と交流を行っています。	どうしたら地域の中で他のこどもたちと活動する機会を作れるか考えていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	1	こどもの発達の状況を保護者と確認しながら、共通理解し支援の内容を考えていきます。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	1	保護者同士で話し合える懇談会の実施や運動発達や食事、歯の健康等の保護者勉強会や事業所の見学会を行っています。	保護者の意見を聞きながらどのような研修会や見学会を開催したらよいか考えていきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	1	入園前の入園説明会や契約説明会、入園後も保護者懇談会等で説明を行っています。運営規定や支援プログラム等は掲示し、いつでも確認できるようにしています。	改定があった場合は速やかに変更点について説明いたします。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11		児童発達支援計画の作成に当たり、個別懇談を行い、こどもや家族の意向を確認しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11		児童発達支援計画を示しながら支援の内容について説明しています。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11		個別懇談時に把握するとともに日々の支援の中で必要な助言や支援ができるようにつとめています。	保護者から懇談の申し入れがあった時は速やかに懇談ができるようにします。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	2	保護者懇談会や勉強会を行い、保護者同士のつながりができるよう支援しています。また日々の療育の中で保護者同士が話し合える機会を設けています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		相談の申し出に対しては、すぐに対応できるように努めています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11		豊田市福祉事業団のホームページに普段の活動の様子を載せています。eメッセージアプリを用いておたよりや活動計画、給食の献立表等を発信したり緊急時の連絡を行っています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11		個人情報を他機関へ提供するときは、その都度保護者に了解をいただいたうえで情報提供しています。事前に情報提供同意書を作成し、説明のうえ署名・捺印していただいています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11		障がいに応じたわかりやすいコミュニケーション手段を用い、情報保障を行なっています。外国籍や手話など必要な場合には通訳を手配したり、コミュニケーションツールを使って円滑にコミュニケーションが取れるようにしています。	保護者と相談しながら、様々な手段を用いて意思の疎通や情報伝達ができるようにします。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	5	地域住民の施設見学や様々なボランティア、学校の実習等を受け入れています。また、ホームページ、絵日記にて情報を発信しています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11		マニュアルを策定し、職員に周知するとともに、定期的に訓練を行い非常時に備えています。	マニュアルを確認し周知するとともに、不具合があった場合はすぐに見直します。またさまざまな訓練を行っていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11		業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に訓練を行い非常時に備えています。いろいろな場面を想定し、訓練を行っています。	非常時に冷静に対応できるよう、訓練を繰り返し行い、備えています。また訓練の結果、改善が必要な場合はBCPの改定を行っていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11		入園前の面接時に確認しています。また、状況に応じて必要書類の記入をお願いしています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	11		食物アレルギーのあるこどもは、医師の指示書に基づいた対応を行っています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		安全計画を作成し安全管理に必要な環境を提供したり、研修を行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11		安全計画を保護者がすぐに確認できるように各教室に掲示してあります。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		ヒヤリハットが起こった時は必ず報告書を作成しています。また打ち合わせや職員会で共有しています。	過去のヒヤリハット報告書、事故報告書についても職員間で情報を共有し、事故の再発に努めます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		虐待防止委員会を設置し、虐待に関する職員研修を定期的に行っています。また、定期的に虐待に関する行動確認票にて日頃の支援をチェックし、施設長面接を行っています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11		なのはなの中で身体拘束を行うことはありません。	個別支援計画にどのような場合に身体拘束を行うか記載されています。また迷う支援に関しては職員会等で話し合い、適切な支援が行えるように努めます。	